

篠山とアケボノツツジ

篠山のアケボノツツジ

標高 1,065 メートルの篠山は、アケボノツツジでよく知られています。頂上近くのアケボノツツジは特に素晴らしく、春の盛りには山腹が鮮やかなピンクに染まります。

アケボノツツジは主として九州（日本列島の 4 つの主要島のうち一番南にある島）に生育する種で、篠山は四国唯一の生育地です。アケボノツツジは環境省によって準絶滅危惧種に指定されています。

アケボノツツジの保護

1990 年代初めに篠山の斜面の笹が減っていることが分かった時に、アケボノツツジも深刻な危機に晒されていることが認識されました。笹が再生不可能なほど鹿に食い荒らされたため、ツツジが育つ肥沃な土壌が剥き出しになり降雨で流出しやすくなっていたのです。地元の人々は力を合わせて様々な方法でツツジを守ろうと努力しました。

[キャプション]

篠山に生育する笹。鹿が通った後の同じ場所。

鹿が近づかないよう 2.2km にわたりフェンスを張り手入れを行っています（フェンスは年に 2 回修復されます）。

苗木を育て、若木の成長をモニターしています。